令和３年度・令和４年度「ちばっ子の学び変革」推進事業（検証協力校）研究成果報告書

1　学校紹介

昭和小学校は昭和３年に創立、学区はＪＲ内房線袖ケ浦駅に隣接している。近隣には行政や文化、商業、スポーツ等の施設があり、市の中心地でもある。児童数６８８名、職員数４８名、学級数２６（うち特別支援学級５）の中規模校で、保護者の学校教育に対する関心も高い。

2　研究主題

『主体的・対話的で深い学び』を実現する学習指導の在り方

～「思考し、表現する力」を高める国語科の授業改善を通して～

3　研究の概要

（1）　児童の実態と課題

全国学力・学習状況調査の正答率を見ると、令和元年度実施の結果では、書き出しの言葉に続けて規定の字数で書く問題は、約３割の正答率だった。条件に合わせ、文章を要約する力が身に付いていない児童が多かった。令和２年度実施の結果に見られる特徴と現状分析には、

○「読むこと」については、特に課題は見受けられなかった。 ▲「話すこと・聞くこと」については、資料を用いた目的を理解してスピーチを聞く力に課題がある。 ▲「書くこと」については、主張が明確に伝わるように、相手にわかりやすい構成や展開を考える力に課題があった。　〈○：良かった点、▲：課題となる点〉

とある。また、本校職員の分析結果から「条件に合わせて文章を要約する問題の正答率が低く、設問から必要な情報の一部しか見つけることができない児童が多い。」という実態も把握できた。本校の児童は全体的には学力は高く、基礎基本は理解が高いものの、活用・表現については練習が必要と考えられる。

（2）学力向上のための取組

①全国学力・学習状況調査の問題や結果の分析

○５月…実際に問題を解いて、出題の意図や問題の難易度、児童が躓きそうなところを把握。児童に付けたい力やその力を付けるための手立てについて話し合った。

○10 月…結果の分析を行った。昨年度に引き続き、条件つきの要約ができていない傾向が見られた。

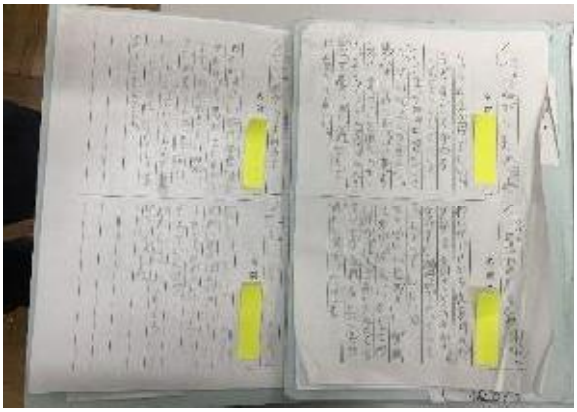
②継続した「書く活動」の検討・実践

「書く活動」を年間通して継続的に行い、思考力・判断力・表現力につなげていく。

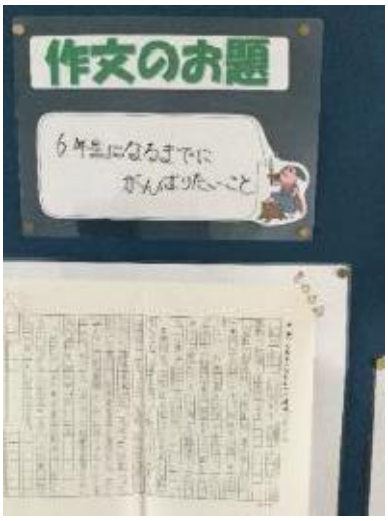
低学年…教科書「てびき」活用、ちばっ子チャレンジ１００、行事の後に短作文、 日記、読書記録など。

書くためには音読も大切ということで、音読にも力を入れて取り組んだ。

高学年…字数制限など条件付きの「書く活動」、学調の過去問を解く、ちばっ子チャレンジ１００、作文や日記の宿題、行事の後に短作文など書くことが嫌いにならないように、書く内容や形式・量などを工夫して取り組ませた。



読書記録（第２学年）



課題作文の掲示（第５学年）

課題作文の掲示（第６学年）

行事作文（第３学年）

③研究体制の見直し・改善

＜「書く」単元にしぼる＞

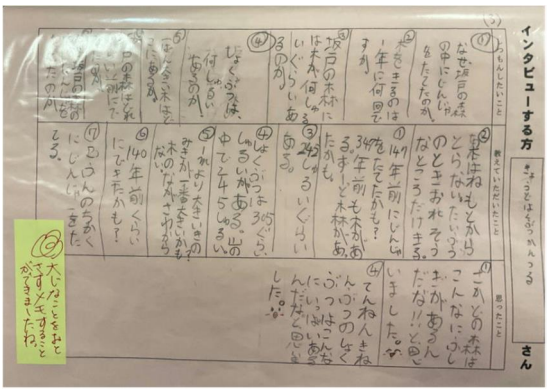
令和３年度は国語の研究初年度、指導案の書き方から授業の進め方まで一から講師に指導を仰ぎ、手探りで進めてきた。授業も本時の中に「書く活動」があれば題材は何でもよいとしたので、随筆､物語文の読解､俳句､報告文､ショートショート作成､話す・聞くの原稿作り、と内容が多岐に渡った。いろいろな実践が見られる良さもあったが､「書く」に関する指導により焦点化し、系統立てて研究を進められるよう、令和４年度は「書く」に関する題材で授業研を行うことにした。

＜部会の見直し＞

令和３年度は、低学年と高学年の２つの部会に分かれ研究を進めてきたが、人数が多く､「指導案検討が効率的に進まない」「授業研の回数が多く、自習が多くなってしまう」などの悩みを抱えることになった。また、昨年度、学年で教材研究をし、足並みをそろえて実践することの良さを実感したことから、令和４年度は「部会は低・中・高の３部会」「学年ごとに１つの教材について研究を深めて実践し、授業研は同じ日に行う」よう改めた。

④授業研究（年間２回、全員授業）

指導案作成の際は「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」の過程を指導の重点として、学習活動を考えるようにした。また、指導計画（特に本時）には必ず「書く活動」を組み込み、仮説を検証した。



インタビューの報告文（第３学年）

新聞（第４学年）

ポスター（第５学年）

発表の工夫の話し合い（第２学年）

＜授業研で各学年が取り入れた「書く活動」＞

学年	教科書　単元名・教材名	書く活動
1	おはなしのくに	・昔話からお気に入りの話を見つけて、友達に紹介したい本をワークシートに書く。
2	じゅんじょや様子を考えて、 さけの一生を伝えよう！	・「さけが大きくなるまで」で読み取ったことを１年生に伝えるために、内容をワークシートに整理する。 ・プレゼン原稿を書く。
3	つたえたいことをはっきりさせて書こう	・学校近くの坂戸の森について、フィールドワークや本・インターネット、学芸員さんへのインタビューで調べ、わかったことをカードに書いて整理する。 ・カードをもとに報告文を書く。
4	新聞を書こう	・グループでテーマを決め、本やインターネット・新聞・アンケートで調べたことなどを取材メモに書いて整理し、新聞に書く。 ・互いに新聞を読み合い、感想を書いて伝える。
5	ポスターを作ろう ～見て！来て！袖ケ浦！！～	・袖ケ浦市について調べ、その魅力が伝わるようにキャッチコピーや推薦の文章を工夫して、ポスターセッションで使うポスターを書く。

6	パンフレットで知らせよう ～僕らが地球を守る！！～	・環境問題について調べ、パネルディスカッションをするための資料や意見文を書く。 ・パネルディスカッションを行って得た情報をもとにパンフレットを書く。 ・互いにパンフレットを読み合い、感想を書いて伝える。

（３）加配教員の活用

本校では、加配教員を国語ＴＴと位置づけ、実践に取り組んできた。指導の形態としては

【Ｔ１として】　・主となって授業を進める。（１時間又は一部）

【Ｔ２として】　・支援を要する児童１人について個別指導、集めて指導、机間巡視しながら支援する。

・Ｔ１を補助する。（板書をする・範読をする等）

・Ｔ１が授業中に進め方で困った時に助言する。

・Ｔ１の発言の補足をする。

特に本校で取り組んでいる「書くこと」に関しては、個人差が大きいために、苦手としている児童にとっては国語のＴＴ指導は大変効果的であった。また、担任へのフォロー役として大きな力を発揮した。今年度は、習熟度別学習に取り組み、新たな学習形態にも意欲的に挑戦した。

ＴＴ指導の課題としては、事前の打ち合わせや教材研究の時間の確保が挙げられる。また、毎時間配当されているわけではないため、単元を通して指導できなかったことも課題である。

4　成果

〇令和４年度全国学力・学習状況調査の結果から、本校と県の平均正答率を比較すると、「書くこと」は県平均を上回り、他の分野より正答率が高かった。２年間の「書く」力を伸ばす取組が寄与していると考えられる。

〇児童の実態や課題を把握し、授業改善への方向性が明確になった。

・「書く活動」を中心に取り組む　・「感動」のある、主体的・対話的で深い学びを意識した授業作りをする・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムで、児童の思考力を育てる

〇継続して「書く活動」に取り組んだことで、児童が書くことに慣れ、抵抗がなくなってきた。

〇授業研究を行うことで、単元を通して「思考力・判断力・表現力」を高める方法を担任一人一人が考え、実践力を高めることができた。特に、今年度は分野をしぼり、学年で教材研究をしたことで、系統性を考えて、より深く授業改善に取り組むことができた。

〇国語ＴＴによって、個に応じたきめ細かな指導ができた。

5　今後の課題

▲全国学力・学習状況調査の結果から「書くこと」については良かったが、「話すこと・聞くこと」は平均を下回っている。昨年度の県標準学力検査の結果でも、各学年で「話すこと・聞くこと」に課題が残っているので、原因を追究して今後も授業改善、指導法の工夫に取り組んでいく必要がある。

▲目的に応じて必要となる複数の情報を見つけ、表現することに課題が見られる。複数の条件を満たして、まとめたり書いたりする学習が今後も必要である。